



新年互礼会(1.22)で、出席者を迎える新井理事長と
中江副理事長(正面右から)

日本記者クラブ会報

第204号
1987年
2月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 110
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話 五〇三一二七二二(代)

政財界首脳を招いて会見

— 盛大に新年互礼会を開催 —

新しい年を迎えたクラブは休みあけ早々から、ゲストを招いての記者会見と研究会を軸に、活発な活動を始め、恒例の新年互礼会もたいへん

な盛況であった。社団法人日本記者クラブは今秋、創立十八周年を迎えるが、ナショナル・プレスクラブとしての基礎はすでに確立した。まださきの話だが、二十周年は趣向をこらして盛大に祝いたいものである。

記者会見は、政界ニューリーダーと財界首脳を柱に予定を組み、まず竹下幹事長、続いて安倍総務会長を招いた。宮沢大蔵大臣は日程の都合で遅れそうだが、中曽根総理と同様に、いずれ来ていただかねばなるまい。政治家ではこのほか、時の人の栗原防衛庁長官に来てもらった。財界首脳のトップは斎藤経団連会長。続いて五島日商會頭、石原同友會代表幹事を予定しており、さらに

大槻日経連会長、佐治大商會頭とも折衝中である。

記者会見に出ていただく人たちがお義理の顔みせでなく、多少は思い切った発言をしてくれるようになったことは、クラブにとってありがたい。現に幾つかの記者会見はかなり大きく報道された。質問する側も工夫して、この傾向をのばしていきたい。

大入りの「経済見通し」研究会

一方、研究会は昨年暮れの「コメをどうする」五回シリーズが大好評だったのを受けて、年頭恒例の「経済見通し」を六回シリーズで開き、時節柄、毎回多数の会員が出席し、これも盛会だった。

このシリーズでも何回か、米国経済の先行きや日米貿易摩擦についての不安要素が指摘されたが、その米国からスマート商務次官、スミス通商代表部次席らが来日し、クラブで

記者会見をした。

こう急テンポだと事務局も対応がむずかしい。昨年暮れの「コメをどうする」が好評だったので、地方の会員など出席できなかった人たちのためにもと、記録版を印刷して配布する手配をしたが、その作業が終わらないうちにスケジュールが進んでいく。重要な記者会見や研究会の記録をあまり日をおかずに会員の手に届けるいい方法はないものか。

新趣向も検討中

そのほか、クラブ活動の改善・向上については、会員資格、企画、施設運営、会報の各委員会が年頭から順次開催されて論議に花が咲き、会員の方がたからも様々なアイデアが寄せられている。

映画の試写会は好評だし、ゴルフや碁・将棋も盛んだが、みんなで楽しめる気軽な見学会やグルメ会などもあるか。そういう希望も多い。

いろいろと、話のまとまったところからやってみて、会員諸兄姉の期待にこたえていきたい。

(事務局長 下田進一)

新年互礼会



今年の新年互礼会懇親会は、一月二十二日午後六時から、プレスセンターホールで約三五〇人の会員が出席して開かれた。

壇上で、まず十二月に就任の下田事務局長を紹介し、前任の中村貢氏の労をねぎらった後、新井理事長は次のようにあいさつした。

「毎年会報の一月号に私が書いていることがピタリ、ピタリと当たっています(笑い)。今年は、乾坤日夜に浮かぶ」と書きましたが、まさしく、みなさんの仕事が忙しくなるような事件、事故が発生しています。良いことばかりではありませんが、言論・報道活動の場は、ますます活性化するものと思います。」

上田会員が最高得点

全員で乾杯の後、第十四回予想アンケートの結果と最高得点者が、藤村邦苗企画委員長から発表された。今回、輝かしい奇跡を果たしたのは、上田正夫会員(日刊工業新聞社論説委員)。過去最高の五三九人の応募者中ただ一人九問に正解。「北尾の横綱昇進はあるか」を誤まっただけだった。上田会員には藤村委員長



アンケート最高得点で表彰される上田会員(左)

から表彰状と記念品が手渡された。

予想アンケートの結果は別掲の通り。円相場とマル優問題で大多数がつまづいた。「マル優問題」については、出題時の関心が郵貯の扱いいかんにあったので、「全廃」と企画委員会判断した。これらの正解率は、五十三年の「一ドル二一〇円を割るか」の一・五%という最低記録には及ばなかったものの、一〇%台の正解率が二問というのははじめて。全問の正解率の平均も五〇・八%と低調で、先をヨミ難い一年だった。

▼上田正夫会員談

いま考えれば、われながらよく当たったなあと思う。

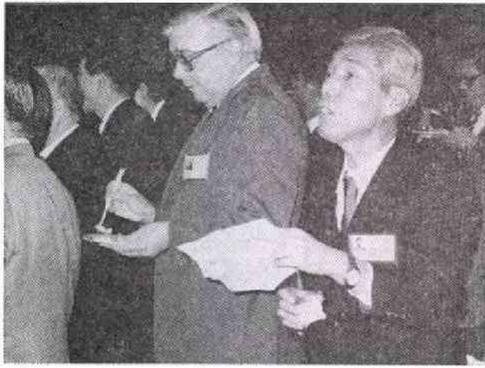
ただ円レートについては、日頃の取材を通じて、かなり円高になるという印象を持っていた。特にアメリカ側の不満を考えると、他に方法はないだろうと思っていた。

また、三十年記者をやらせてもらって、日本の持つ適応能力の強さも見てきた。円高のテンポは速いが、なんとか克服できると思っている。ジワジワくるよりドカンとくる方が、切り替えやすいかも。

たようだ。

一方、中曽根首相の衆議院解散を六割以上が「アリ」と読み切っていたのは興味ぶかい。なお、今年の問題中の「一ドルが一五〇円以上の円高になることがあるでしょうか」は、一月十九日に一四九・九八円を記録したため、この問題を無効にし九点満点で行うことになった。

さて、今度は満点獲得者が出るか、全問不正解の特別賞受賞者はどうか。結果は来年の互礼会までのお楽しみ。



「当たったワンの番号や、」と思わず叫ぶ
谷田区会員

谷田会員が「二冠」制す
引き続き恒例の福引が行われた。下田新事務局長が大声で特等二本と一等三本の番号を読み上げる度に、歓声と拍手と大きなタメ声が行場内にあふれた。新年早々、幸運を射とめたのは次の方々。
特等(携帯用カラーテレビ) Ⅱ谷田 匡氏(徳島新聞東京支社長)
特等(卓上クラシック地球儀) Ⅱ岩 村精一洋氏(読売OB)
一等(カシミヤのマフラーと膝かけ) Ⅱ小藤哲郎氏(毎日OB) ダイガー
DAP通信東京支局長夫人
一等(ハンティング社製財布) Ⅱ吉



「コングレーション」下田事務局長から
一等賞を贈られるダイガードAP支局長夫人

原好明氏(西日本新聞東京支社長)
特等の谷田さんは、一昨年予想アンケートでは満点を獲得、これでもカンクッとツキの二冠を制覇したと大笑い。一方、岩村さんは互礼会初出席での大当たりだった。
タフでなければつとまらない職業だけに、会員の食は太い。いつもは一時間もすればテーブルの上がさみしくなるので、今年は料理もたっぷり準備した。ポリウム一杯のシゴ馳走を囲み、マクドネル日本外国特派員協会会長やホーズレー在日外国報道協会会長などの招待客とともに、にぎやかな歓談が午後八時まで続いた。



新井理事長(中央)と歓談する東会員、小島会員、五味会員(左から)

第14回「予想アンケート」の結果 (昭和61年1月23日実施) (応募総数 539)

質問	正解	正解率
1. 中曽根首相は、衆議院を解散するでしょうか。	する	61.8%
2. 東京外為市場で、1ドルが176円を上回り、円の新高値を記録するでしょうか。	する	13.7%
3. 国会で国鉄民営分割化が正式に決定するでしょうか。	する	74.6%
4. マル優(少額貯蓄非課税制度)の全廃が正式に決定するでしょうか。	する	12.4%
5. 東京サミットに集まる七首脳顔ぶれは、前回のボンサミットの時と同じでしょうか。	同じ	64.0%
6. フィリピンで、マルコス政権が存続するでしょうか。	しない	30.1%
7. 浩宮さまの妃殿下決定が正式発表されるでしょうか。	されない	54.2%
8. 日本人(日本国籍)から、ノーベル賞受賞者が出るでしょうか。	出ない	76.1%
9. 中国から婿入りしたトキのオスと佐渡のメスの間に、めでたく二世が誕生するでしょうか。	しない	82.4%
10. 新大関で初場所を迎えた北尾は、年内に綱を張れるでしょうか。	張れる	39.5%

文革新の犠牲者

王和成さんのこと

とっておきの話

江 頭 数 馬



門に近い第二病院

の外科主任の医師
で、京都大学医学
部の卒業生であ
る。父長春さんも

東大薬学出身、上
海市政府の参議と
して大の親家だ

った。夫人は京都の人で、近藤妙
子は本名、中国に帰化して王鶴卿
と名乗っていた。王和成さんが京
都に留学していた時の下宿先のお
嬢さんである。日中戦争時代の逆

境のなかで熱烈な恋に落ち、親の
反対を押し切って、結ばれた仲で
あった。

王さんは一九四五年六月、母国
の北京に戻って病院に勤め、終戦
を迎え、腕をかわれて警察病院長
となったが、米兵の女子学生（沈
崇）強姦事件で、女学生側に有利
な診断書を書かなかつたというこ
とで非難されたことがある。しか
し、新中国誕生後は、有能な外科
医として政府に信任され、第二病
院に勤め、院長（もっとも解放軍
兵士）以上の給料をもらってい

た。

私が文革の二年目、けわしい様
相下の北京で王和成家を訪ねたの
は、王さんの学生時代以来の親友
牧田諦亮さんの紹介状をいただいた
たからであった。牧田さんは京都
大学人文研で研究を積んだ中国仏
教学の第一人者で、滋賀の寺の住
職でもあった。後輩筋の私はかね
てから教えを受けていた。

私が王さん宅を訪ねてから、数
週間もたったころ、王夫人が会い
にきて「訪問は困る」といわれ、
ついで王さん自身から支局に電話
があり、「外で食事でもしましょ
う。またお電話します」という話
であった。私は心待ちにしていた
が、ついに電話はなかった。それ
からあまり日のたない六七年九
月十日、私自身追放命令を受け、
王和成さんはこの年十一月一日勤
め先の第二病院に拘留され、六九
年十二月十九日、山西省臨汾の第
三監獄で胃潰瘍のため世を去って
いる。夫人も夫の拘留に前後して
同じ病院内に監禁されたのだっ
た。王さんの電話は、私に対する

今年、文革下に日本人記者追
放事件が起こって、二十周年とい
うことになる。私は事件の渦中に
あった一人として、いささか感慨
を禁じえない。

この事件からんで、かた時も
私の脳裏から離れない家族のこ
とがあった。王和成夫妻と娘さん
である。私が毎日新聞支局長とし
て、北京に滞在した一九六七年夏、
西単のお宅を訪ね、短時間お話し、
その後日本人妻である奥さんと王
府井で夕食をともしただけの、
ごく浅いつきあいしかない。

『北京を追われて』のルポの中
で、「娘さんが、さる中学の光栄
ある紅衛兵になった。そんな家庭
で、ぜいたくは禁物とばかり、香
港で仕入れた電気洗濯機、ピアノ

を次々に売り払った。娘の提案
でと聞いたが、胡同（小路）の奥
の院子に面した廂房の一角に住ん
でいて、内部がまる見え、隣人た
ちにうしろ指をさされるのを恐れ
た形跡もうかがえた」と描いた家
族である。迷惑がかかってはと恐
れ、一切ソースは出さなかった。

しかし、この家族は文革のいた
ましい犠牲者になっていた。日本
人妻はけなげに死んだ夫の名誉回
復をかちとった。その悲しい夫婦
愛の記録が、近藤妙子著「北京三
十年」（新潮社）として刊行され
ている。私は王さんのその後を知
ることができた。

「またお電話します」

王和成さんは北京市の西、復興

ぎりぎりの誠意のあかしだったのだ。

王さん夫妻は日本人とのつきあいを密告され、国際スパイとして公安局送りになっていた。二十年前の沈崇事件まで罪状に加えられていたという。私自身こうした事情を知る由もなかったが、王さんに会ったことはやはり取り調べの対象になっていた。

文革という名の事情変化

そのことを私に教えてくれたのは、北京に五年間抑留された川崎謙吉さんだった。紅衛兵新聞を読んだというのがおもな罪状とされた川崎さんは、一九七三年四月釈放されたが、公安局の取り調べのなかで、そのことが出たということだった。川崎さんには、鄧拓の「燕山夜話」の資料入手で世話になっていた。文革イデオログ姚文元に批判され、文革の口火となった禁断の書であった。公刊された書籍だったが、国外ではなかなか入手できなかった。「燕山夜話」の背景をえぐることで、文革の理

不尽さを訴えた毎日新聞は六六年の菊池寛賞に輝き、無実の罪で死を遂げた鄧拓にとつても何よりも供養になったものである。

川崎さんの話では、公安局の取り調べで、この件は、公刊書だから問題はないということだった。王さんについてだけ調べられたのは、王さんをおとしめる証拠集めにだれかが狂奔していたというべきであろう。近藤さんの手記では、そのへんの事情も明らかにされた。

王さんには、私などよりもっと長いつきあいの方がいた。手記によれば、三昌貿易営業部長の中川博さんと、大豆や粟を輸入する仕事のため、一九六一年頃から中国との間を往来して、王さん宅を訪ねていた。誠実そうな人で、王さんも信頼していたが、来訪の事実が党支部に報告していたという。この中川さんが、川崎さんと同じ時期に、同じような容疑で逮捕、抑留、釈放されている。私は中川さんとは面識もないし、帰国された後会ったこともないので、事情

はわからない。

しかし、王さんと中川さんのつきあいが調べられたことは容易に想像できる。もつとも、川崎さんや中川さんたち商社マンと中国側の日本担当者たちとの交際は、文革の前まで相当なものだったといわれている。LT協定で、北京に常駐を許された日本特派員の第一陣は、実力者廖承志さんに面倒をみてもらい、街では王さんのような日本留学生組やその家族と日本人駐在員との間に、熱い交流の輪がひろがっていった。そのことが文革という事情変化で、罪とされるようになったのである。私に対する疑惑も、こうした環境のなかで生まれたのである。取材と報道を生命とする新聞特派員としては、全く話にもならない。

新聞界の対応にも問題

しかし、王さん一家にとつては生死にかかわっていた。そのことを思うと私の心は痛んだ。幸い、日中国交回復後、王夫人は娘さんとともに帰国され、日本国籍を回

復した。王和成さんも冤罪が晴れて、一九八〇年五月十七日北京の八宝山霊堂で、盛大な追悼会が開かれた。参列した近藤さん親子には、牧田さんがついて行った。

私もまずはよかったですと胸をなでおろしたが、死んだ王和成さんが哀れでならない。そして王さんのような善人を死に追いやった文革とは何だったのか、改めて問い直さずにはおられない。日本の新聞界は、文革にはだらしがなかった。記者追放事件が起こったとき、新聞協会が毅然としておれば、商社マンから記者にまで及んだ逮捕、監禁という最悪事態も防げたのである。王夫妻の苦痛を少しはやわらげられたのでは、と思われるのである。当時のことでまだ分からないところが多い。「文革学」がおこってきた昨今、事態究明の必要性はますます強まっている。

えがしら かずま氏略歴 大正十四年佐賀県出身。京都大学卒業。昭和二十三年毎日新聞入社。三十六年から三十九年まで香港特派員、四十二年北京支局長。五十四年論説委員を最後に退社。現在、日本大学商学部教授。

中国 学生デモ

ワーキングプレス

後を振り向く癖がついてしまった。いささかしつこい尾行のためだ。小型トランシーバーを手にした男が電柱の影に立ち、歩道びつたりオートバイの男が低速でついてくる。「××行きは何番のバスですか」と問いかけてくる男に「知らない」と応じると、薄笑いを浮かべて立ち去り、また百メートルも歩くと、別の男が「××飯店にはどう行けばいいのか」と尋ねながら、私と私が同道している人物をなめるようにする。

黒塗りの、カーテンつきのベント数台で一時間半にわたり尾行されたこともあった。小道に入ろうが、Uターンしようが、執拗についてくる。

盗聴など毎度のことだから慣れっただが、電話取材中に突然線を切られたりすると、こらえている怒りが爆発しそうになる。

いっそ、火炎びんや爆弾が飛んでくる現場の方がいいと思う。話がハッキリしているし、こちらは逃げるだけだ。たかだか人と会って話を聞くだけなのに、事前に直

接の電話が使えず、ホテルのロビー、レストランは監視が厳しいからと、零下十五度の雪道をコソコソ歩かなければならないとは。この国では、公式記者会見、公式宴会以外の、いわば独自取材に、ある種のやましさと、胃がキリキリ痛む緊張感がつきまとう。今の時期は特にそうだ。やましさは、情報源の身の安全を、当方が何ほども保障しえないことからくる。

独自取材の危険とつらさ

辺見秀逸

友人たちの安全を考えるなら、会わないことが先決なのであり、政治の暗部になまじ鼻を突っ込まぬことだ。

外国人記者の取材に協力した善意の人々が、ただその事のために、一生を台無しにするほどの不幸な目に遭ったのを、胸はりさける思いで何度か見てきた。取材した記者は、通常は警告、悪くても数日間の拘束か国外退去だ。災難

の重さにおいて、彼我の差は歴然としている。

だとすれば、独自取材はやめて、公式紙の転電に徹するか、と思わないでもない。昨年十二月の学生デモ以来の政変について、他社がどんどん抜くにまかせ、当方は沈黙をきめこむのも、ひとつのいき方なのか。

いや、それはできない。手が、自然に出てしまう。しかし、友人たちがどうなるか。また暗たんとする。どうするか。コンタクトに細心の注意を払い、情報源の安全を最優先して……とても無理だ。

十二月から一月にかけて、壁新聞取材で各大学を回り、雪の中をこけつまるびつ、学生たちの民主化要求デモにつき合ってきた。そしてデモ収束後の政局大変動。連日夜中までの取材、徹夜で数百行の送稿。正直、疲れた。帰国して温泉にでもつかりたい。が、変動は地殻下のマグマのように不気味に続いている。また重い腰をあげなくてはならない。こんな時に、威

嚇的な尾行をされるのは本当につらい。

本稿執筆中に、AFP北京支局のローレンス・マクドナルド特派員に情報を提供したとして、天津大学生が逮捕されたとの連絡が入った。ローレンスは私の友人。快活なカリフォルニア人で、情に厚く、約束をキチンと守る。情報源の身の安全をないがしろにするような男ではない。

新華社電は、この大学生が「マクドナルド記者と、こっそり気脈を通じ、情報を提供していた」と伝えた。ラジオ、テレビ、新聞が一齐に、まったく同文で、この事件を大々的に報じている。中国で独自取材をする、すべての外国人記者への警告である。

それにしても、「こっそり気脈を通じ……」の表現は、暗く、悲しく、やり切れない。もうろうとした頭に、私の中国の友人たちの、切迫した顔が浮かんで消える。叫びが、幻聴のように聞こえてくる。

(へんみ しゅういつ 共同通信社北京特派員)

福岡 暴力団抗争事件

ワーキングプレス

「Mさんですか」。病室に入ってきた男は、ベッドの患者に念を押した。「おう、わしじゃが」との声が返るなり、短銃を取り出し一発、二発。腹をやられた暴力団幹部Mは重体に。

別の場面——短銃を構えた二人組の男が「どけっ」と怒鳴りながらスパーの客をかき分け駆け抜ける。追われる男二人は、客を盾にしながら逃げるが、ついに一人は銃弾七発を頭や顔に浴び、もう一人は首筋を一発撃ち抜かれてともに即死。

福岡県内で繰り広げられる九州最大の暴力団道仁会（本拠地・久留米市）と山口組系伊豆組（同・福岡市）の短銃抗争事件の一コマである。昨年十二月半ばから続く発砲は一月二十三日現在で五十四件、死傷者は十六人に上る。西日本一の歓楽街・中洲への進出を狙う道仁会と、これを阻もうとする伊豆組の縄張り争いが原因とみられるだけに、簡単には収まりそうにない。

約一万人の福岡県警は、四千三百人の警官を投入して暴力団壊滅

記者も防弾チョッキ着用

安部精旨

に当たっているが、一月二十二日には、機動隊のバスやパトカーの警官が警戒する道仁会本部事務所めがけて、手投げ弾が投げられ、塀に当たって路上で爆発した。ケガ人はなかったが、抗争は大量殺傷を狙った爆弾闘争にエスカレートする可能性も出てきた。

福岡県警を担当するサツ記者は、もう一年以上も骨を休める暇がない。六十年十件、六十一年十

一件と、ここ二年の汚職摘発件数は全国一。これを受けて昨年暮れから「出直せ地方自治」の長期シリーズ連載でキャンペーンを張っているわが社会部は、自治体に巣食う暴力団や暴力土建屋を締め出す今が絶好のチャンスととらえ、数年前から続ける「暴力つぶせ」キャンペーンと連動させる形で、シリーズ第三弾「暴力と自治」を展開中だ。ここでは、暴力や脅しに

弱い行政、それに暴力団と政治家、土建業界と首長や議員などの癒着ぶりを暴く。

汚職や暴力の追放キャンペーンを張っていつも悲しいのは、一般市民にさほど切実な被害者意識がないこと。市民の側に、むしろそれらの再生産を許す土壌があること。たまに飛び込んだ勇氣ある暴力被害の訴えを、匿名で大きく報道すると「あんなにデカデカ扱われるとは……。お礼参りがあつたらどうする」と、クレームをつけてきた例が今回二件あった。

抗争は起こるべくして起きた、ともいえる。暴力団の動向把握の弱さ、情報の少なさ、短銃野放し、覚せい剤などの資金源摘発の手ぬるさ……。積年の怠慢のツケがいま回ってきたことを反省する声が、県警内部にもある。それに、電話や投書で社会部に届く警察不信の声の多さ。いかに日ごろの警察活動が市民サイドに立ったものでないかがうかがいしれる。

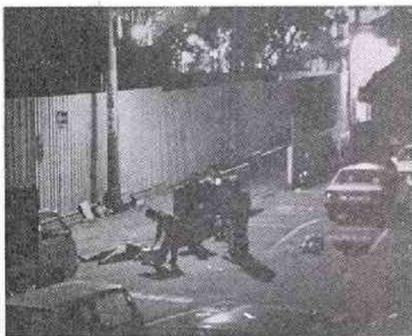
とはいえ、マスコミにも反省す

べき点はないか。「無法集団に市民権はない」と唱えながら、根本部分をえぐり出せぬ抽象論が多い。暴力、セックス、麻薬など、強い刺激を求めがちな社会風潮は、暴力団にも寛容であり、彼らをトラブル解決に利用する市民や会社が少なくない。

警察、行政、市民、マスコミのいずれにもチグハグな面が残る暴追運動。道のりは遠く険しい。

——乾いた銃声は、まだやみそうにない。福岡、博多の街を、夜の久留米をパトカーが駆ける。それを追って防弾チョッキの取材記者もまた走る。

（あべ せいし 西日本新聞社会部）



西中洲の現場。短銃を突きつけられて車を降りた3人に、4人組が容赦なく引き金を引いた（61.12.18 午前3時）

京大フットボール

ワーキングプレス

一月三日、国立競技場。京都大が
学が大接戦のすえレナウンをふり
きり、三年ぶり二回目の日本一の
座についた。

京大の今シーズンの栄光は、昨
シーズンの屈辱的な敗北から始ま
った。関西リーグで最も重い、強
力なラインをもち、バックスにも
人材をそろえた昨シーズン、慎重
な水野監督の胸のうちにも、何度
か「日本一」という言葉が浮かん
だに違いない。しかし、故障
者があったとはいえ、近大に
不覚の逆転負け。ライバル関
学にも、わずかに二点差でおよ
ぼず、リーグ同率二位の結果
に甘んじた。

強力ラインの中心が抜けた後、
新四年生は、グラウンド裏の比叡
山にランニング登山を続け、山中
で打倒関学を叫んだ。またQB東
海は、オフシーズン中同じく比叡
山とグラウンドを四十分間で往復
するトレーニングを三十回、さら
に合間は平地のランニングを続け
て足腰を鍛え、自室の壁には、ラ
イバル関学QB芝川の甲子園ボウ
ルで活躍する姿を張り付けて、雪

辱を期した。

そして、留年した昨年のライン
の中核、泉、横山等はコーチとな
り、今年は仮想関学、日大、また
レナウンとして、後輩達に胸をか
した。このような体力と精神力の
強化が、今シーズンの飛躍につな
がったとおもえる。

京大の選手は、多数が浪人経験
者で、スポーツ経験のない人も多
い。そのうえ、かなりの学生が留

原書で本場の技術学ぶ

年覚悟でプレーしている。とはい
え、練習時間に全選手が揃うこと
は珍しい。

その京大の強さの秘密といえ
ば、まず徹底したリクルート(時
には後輩の入試の指導をしたりす
るほどである)、そして完べきに
整備されたシステムに加え、なに
よりも水野監督を中心とした、フ
ットボールへの情熱だ。京大の選
手たちは、水野監督のその情熱に

ほれ込んでいる。現在では珍しい
一種浪花節的な人間も多く、気合
で勝負するような傾向がある。大
事な試合の前に、自ら坊主頭にな
って、精神の集中をはかるといっ
た具合である。

一九〇センチ、一一〇キロとい
う大型センター屋敷など、入学し
た時に勧誘を受け、「体が大きい
だけで、動けない自分にはとても
無理」と思ったが、水野監督の話
を聞くうち引き込まれ、

監督の「男になってみる」
という一言で、「やって
みよう」という気になっ
たという。当時一五〇キ
ロ以上あって、「怖くて

計れなかった」体重を、一一〇
キロまでしぼり、ラインの中軸
となった。そして彼らは、フッ
トボールが肉体にも増して、頭
を働かさなければならぬスポ
ーツであることをよく知ってい
る。

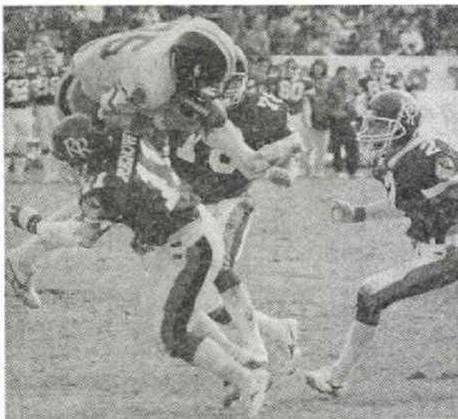
部員にはビデオデッキが必需
品といわれるほどビデオを備
え、繰り返しそれを見、原書で
資料を読んで、本場の技術と精

神を学ぶ。日大や関学とのフット
ボール経験者の数の違いから、京
大はアマチュアといわれることを
嫌い、東海選手は「我々は、いつ
もフットボールのことを考えてい
る。我々こそプロだ」と反発す
る。

そしてなによりも水野監督のフ
ットボールへの情熱、これを語ら
ずして現在の京大フットボールは
語れない。甲子園ボウルの後のこ
の一言が忘れられない。

「今年のうちはカスばかりや
つけど、素晴らしいカスたちでし
た」

(みよし としゆき 毎日放送アナウンサー)



京大・若林のジャンピングキャッチ (1.3 ライ
スボウル) 写真提供 共同通信社

クラブゲスト

竹下登 自民党幹事長



一月十一日から十五日まで訪中。ビッグ3との会談を希望したが、出発前「胡耀邦さんは病気で、出が、過労のため医者から面会を禁止されているのでお会いできない」と連絡があった。

鄧小平会談では「胡耀邦氏への日本側の期待もそれとなく込め、お見舞いを申しあげるのに苦労した」と語る。その時の鄧氏の表情はどうだったかという質問も出たが、「十億の民の指導者ですから、顔色に出たという感じは……」「党内で開放政策と社会主義体制維持の関係で、若干の意見の相違があったようだ」。また「(日中は) あらゆるレベルの問題を積みあげ努力しないと、体制の違いがあるので」と、先行きの困難さも示唆した。

ポスト中曽根関連では「六月のベネチアサミットへは、その時の総理が行くのだが、サミット前後はあま

り議論になる話ではない」と。

創政会旗上げ直前(六十年一月九日)のクラブでの揮ごうは「わが道を行く」、その秋に来た時には「竹有上下節」、そして今回はただ一字「忍」のみ。最後に「新春田中邸前払い」の質問には、私個人に関わる問題なのでと、コメントを避けた。【二月十六日(金) 昼食会 藤村邦苗企画委員長 出席 一八五人】

栗原 祐幸 防衛庁長官

「昭和六十二年度予算で、防衛費がGNP比一%を超える。これはどういうことか?歯止めは?」と、自らの話のワタ組みを設定して、約四十分のスピーチ。「超えた」理由は①円高・ドル安を配慮しての在日米軍基地の日本人労働者の費用負担②宿舎・隊舎など後方整備のため、近隣に脅威を与えるものでないことを力説した。

新しい歯止めについては、「閣議での総額明示方式でローリング(見直し)しない」「ローリングしてグニャグニャ変わるという認識をもたすべきでない」と



述べ、注目された。中期防衛力整備計画

(六十一年〜六十五年 総額十八兆四千亿円)では、「必要に応じ見直しを行い、三年後に新たに作成し直すことについて検討できる」とあるが、長官発言は基本的に中期防の総額を見直す考えのないことを示したものの。

揮ごうは論語を引き「道之以政」と。

文民統制の気概を示そうとする長官だが、問題が微妙とはいえない不明瞭な表現や省略が気になる。六階のFPCで閉鎖回路のテレビで(英語同時通訳)、この昼食会をカバーした外国人記者の感想もききたいところだ。【二月二日(木) 昼食会 高野洋企画委員長 出席 七五人】

斎藤 英四郎 経団連会長

六十一年五月に経団連会長就任。ということは昨春以来、円高と貿易摩擦の朔風を、財界総理として正面から受け続けてきたことになる。現在の心境を「鈍鳥逆風」に託し揮ごう。

当面の国内経済については、内需振興のための公共事業拡大を述べ、補正予算の必要性を示唆。対米摩擦解消のため、財界の考えをとりまとめ、二月の日米財界人会議運営委員会(ハワイ)に間に合わせたい、とする。

「インバランスがレートに短絡して一〇〇円、一二〇円などということになれば日本経済は窒息する」。しかし「向こ



うへ行っているいろいろな言われてみると、そうかなと反省させられることも多い。自民党大会でいままさ「国際国家 日本」などというのも変なのだが、日本人一人一人が「truly internationalized minded」になる以外に問題解決の方法はない、と言いつける。【二月二日(金) 昼食会 司会 深川誠会報委員長 出席 八三人】

B・スマート 米商務省次官

M・B・スミス 米通商代表部次席代表 米政府が日本に送り込んだ大型通商交渉団の中心人物。商務省勢一九人、US TR三人の合同部隊。二人のリーダーはいずれもハーバード出だが、スマート氏は実業界育ちで、スミス氏は国務省育ち。陽性の「ロ八丁」と無愛想をかくさない手堅い能吏のコンビ。

スマート氏のスピーチも激しい。「日本には二つの政策のオプションがある。内需と市場開放に立脚し現在の繁栄を維持するか、円高による輸出減でのリセッション」。米国の貿易パートナーの前には二つのシナリオがある。輸入を増やし

ク ラ ブ ゲ ス ト



渡井泰範企画委員 通訳 横田謙 出席 一七八
人 写真 右スマート次官 スミス次席

て輸出とバランスさせるか。それとも市場閉鎖を放置し、レートの変動による輸出の減少で不況に突っ込むか。後者のシナリオは「無策の結果」としか言えないだろう。

個別項目については、関西新空港プロジェクトへの米企業参入については改善を認めたが、半導体とスーパーコンピュータでは大きなへだたりがあったと報告した。

日米双方で非難合戦の半導体のダビング問題について、日本人記者が「日本側は証拠を出したのに、米側は証拠を提出しなかったときくが」と質せば、スミス次席は「私の知るかぎり日本側から証拠は出ていない。我々は提出した」とのやりとりも。「一月二九日(木) 昼食会 司会

鈴木 淑夫 日本銀行金融研究所長



円相場が一七〇円〜一五〇円くらいで推移するといふ条件の下で、シナリオを示した。この場合、日本経済に三つの景気

浮揚力が生まれる。①製造業の収益悪化が底を打つ②数量ベースでの輸出減少が今春でとまる③春頃に在庫調整が済み、その後在庫投資が伸びる。「いずれも消極的要因だが、六十一年度はこの三つで一・五%以上成長の足を引っ張った」。

昨年末からまた一揺れした円だが、大勢的には円高天井感が出てきた(中期的には円高傾向でも)として、「円レートが予想外で一四〇円ギリギリ」ということがあっても、「成長率は三〜三・五%へ入ってくる」との見通しを示した。

ドル暴落については「昨年円が五割も高くなりドルが三分の一に減価したのだから、あれで相当ガス抜きされたのではないか」。「二月八日(木) 研究会 司会 広瀬一郎企画委員 出席 一一一人」

水谷 研治 東海銀行取締役調査部長

「昨年、為替レートの予測が見事的中した、唯一の日本人ということでは有名になりました。今年の研究会のメダマです」と司会者は紹介したが、講師到着前

事務局での雑談では「悪魔のシナリオを書く人です」。

のっけから「現在、経済は下降しつつあり、六十二年度もこれが続く。これが結論です」。

①米国景気——財政赤字削減は計画通り実施されないし、この赤字削減自体は景気に対してマイナス要因②円高不況——(円)円高のプラス面がこれから

まだ出てきて、輸入は増えるが、これは国内産業圧迫要因。(円)輸出業者は急騰あれば急落ありの認識で、損を承知で数量を維持して継続してきたが、基本的な円高傾向の中で、それがいつまでもつか。

「この段階では本格的な財政政策が必要なのだが、政府に金がない」。

「八四年から四ヶ

62年度経済見通し

	実質成長率 (%)		鉱工業生産 [前年度比 %]	輸 出 (同 %)	内 需 (同 %)	民間企 業設備 (同 %)	経常収支 (億ドル)		円レート [年度平均 円]	米 実質成長 率 (%)
	61	62					61	62		
政府見通し	3.0	3.5	2.2	-	-	6.6	880	770	163	-
国民経済研究協会	2.5	3.5	3.9	1.5	3.7	5.0	857	813	155	2.8
大和証券経済研究所	2.7	3.3	2.3	1.2	4.0	3.6	847	743	163	2.5
日本経済研究センター	2.3	3.1	1.7	▲ 0.4	3.3	5.3	897	857	151.3	2.6
日興リサーチセンター	2.4	2.7	0.4	▲ 2.3	3.6	3.8	872	739	161.5	2.5
三和総合研究所	2.5	2.5	▲ 0.7	▲ 2.0	3.2	3.1	857	731	158	2.6
山一証券経済研究所	2.1	2.4	▲ 0.2	1.7	2.9	3.8	879	841	153	1.5
野村総合研究所	2.2	2.3	▲ 0.6	▲ 0.5	3.7	3.9	848	735	152	1.3
三菱総合研究所	1.9	1.8	▲ 0.9	0.4	2.1	2.5	924	868	163	2.0
富士銀行	2.0	1.7	▲ 0.8	▲ 4.7	2.2	2.3	820	700	161	1.8
東海銀行	2.4	1.6	▲ 2.0	▲ 4.1	2.3	1.9	900	800	150	2.3

(注) 1. 米国の実質成長率は暦年ベース。
2. 輸出はGNPベースの実質輸出等。

(日興リサーチセンター)

クラブゲスト



の異常な経常赤字が、来年はともかく今年は統いてくれる」と、楽観視しての見通しなのだそうだが。「二月九日(金) 研究会 司会 広瀬一郎企画委員 出席 九五八人」

林 健二郎 野村総研取締役

「昨年は一高二低三波乱の一年であった。わが国は円高、物価・金利安、株価・地価・政局の波乱に見舞われた。「その背景には世界経済の地殻変動がある」。

「米国の時代」を①第一期―混沌の戦間期②第二期―ブレストンウッズ体制構築とその成功③第三期―七一年の金・ドル本位制崩壊から八五年米国の債務国転落まで―に分類。第



三期は経済力衰退の中で、国際的に過大な役割をかかえ、かつ国内的に過大な成長を遂行。その結果、米

タになっている米国の経常収支赤字が、八七年も一、〇〇〇億ドルと続き、日本の皆さんが貸し続ける。米



松川 道哉 日興証券顧問

五十二、三年頃、財務官として円高に苦慮した。が、当時とは「月とスッポンだ」と言う。為替管理制度があり政府サイドにも手段があっ

たが、いまは自由化と国際化が進行し、世界の金融はほとんど一つの市場で二四時間営業。しかも、資本取引が大部分。カナが暴れる時代。「政府や政府間協定も、マーケットメカニズムに影響を与えられるはするが、通貨をコントロールすることは不可能になっている」。それなら

済に大変な矛盾と不均衡が堆積した。最終ステージのレーガンの経済政策は、いわばインベリアル・サークル(帝王循環)で、基軸通貨国の特権を利用して、ドル高と高金利を武器に世界の資金を調達し、財政赤字を埋め繁栄を謳歌したものの。しかし、ドル高・高金利も終わり、世界経済はアメリカのリーダーシップ低下の中で、第四期の多極化の時代へ。「米国は①増税②防衛費削減③オーバー・プレゼンスの変更④生活水準切り下げをテーマにせざるを得まい」。日本は円の国際化を進め、過剰貯蓄をグローバルな財政政策に使うべきだ。「二月三日(火) 研究会 司会 鈴木幸夫企画委員 出席 七五八人」



原田 和明 三和総研専務取締役

「円高ビートの日に」とゲストサイン帳に書いた。この日、円が瞬間的に一五〇円を割り一四九円九八銭をつけた。「もし、これがさらに進めば、見通しを再構築しなければならぬが、いまの時点ではその必要はない」。米国の十一月収支が予想外に悪かったのと十二月も改善しそうにないことが、この円高の原因ではないか――と。

十分に資料を整え、世界経済のすう勢、米

勢、米経済、日本経済を説明した。興味深かったのは、米経済についての日米のイメージの相違。日本では空洞化や国際競争力低下や

どうすればいいのか。経済政策をトータルにみて、円レートが大事なら、相反する目標を持つ個別政策を調整していくしかないのだが――。年末からの円高も、「新年度予算案を外国がみて一気に噴き出したのではないか」と言う。ソトからみた場合、日本政府の優先順位が分からない。「もしかすると、円高は後の方の順位なのかも、という印象を与えたかもしれない」。二月十四日(水) 研究会 司会 平田真巳企画委員 出席 六八八人」



宮崎 勇 大和証券経済研究所理事長

ここ三年、年初の研究会でつねに内需拡大策を述べてきた。景気変動の波を小さくするのも財政の役割の一つなのでタイミングが大切だとして、昨年の三兆六千億の補正を、「ちょっと遅すぎた」と残念がる。一人当たり所得がいまや一万五千ドル。米国に並び、それを超えたかもしれない。国としても世界一の債権国に。しかし、国民の中にその実感が無い。「住宅や社会資本を充実し労働時間を短縮して、一万五千ドルにふさわしい国民生活を実現するための経済政策が必要なのではないでしょうか」。実質的な減税先行を主張し、防衛費増よりは援助増額の立場をとる同氏から見た新年度予算は、「景気に中立よりは足を引っ張る方向では……」。二月二十六日(月) 研究会 司会 鈴木幸夫企画委員 出席 一〇二八人」

スタジオ訪問

広島テレビ放送

「ひろしま TODAY '60」

60分の
テレビ「地方紙」

クラブ詰めの記者に、「経済指標など発表された数字だけを送ってきても使わないぞ」と言ってきた。その数字の持つ意味や、記者が「おもしろい」と思った視点がなければ取り上げる価値はないというわけだ。生活実感を持たせながら、できるだけ具体的にニュースを伝えるという、この番組の姿勢は佐藤さんの考えを反映している。

広島は「戦国時代」に入った。と言っても物騒な話ではない。NHK、民放合わせて五局のローカルニュース合戦のこゝろ。舞台は夕方五時から六時台。昨年九月、広島ホームテレビも人気マンガ番組をニュースに替え、最後に他局と同じ土俵に上った。

各局ともスタイルや企画で、それぞれ特色を打ち出している。その中で今回の訪問先、広島テレビ放送の「ひろしま TODAY '60」は昨年四月に、放送時間を三十分からいっきに一時間に延長した。この時間帯で六〇分のローカルニュースを持つのは、全国でも珍しい。

番組のカジ取り役、佐藤伊佐雄デスクは二年前、アメリカの地方局を視察し、刺激を受けてきた。「ローカルニュースこそが地方局の存在理由」との確信を得たと言う。この番組を担当してから出先

「日替り情報」「特集企画」「ミニ

企画」など企画ニュースの間に、女性アナウンサーを使ったストレートニュースを配置し、全体の進行役は加藤進アナウンサーが務める。各コーナーのレポーターや解説役の奥田さんとのやり取りはソフドでスピーディー。スポーツ中継のようにシナリオがなく、自由さいっぱいの仕事が好きと加藤さんは言う。「時間がおしてきても、面白いと思ったら自分の判断で項目をとばすこともありすよ。渡された進行表はあくまでも予定ですからね。内容が最優先でタイムテーブルは二の次です」。

この自由さを支えているのが六〇分という時間の長さ。時間が伸びればメニューの数が増えるだけ、という単純なものではない。ニュース項目が増えるとともに、ひとつのテーマへより深く入り込むこともできる。当然、そのためには、より

細かい周到な取材が必要となる。以前は通りいっぺんの取材で一分にまとめていたようなものを、少し掘り下げて三分にする。また、三分だったものは五分に、五分だったものは十分に……。以前とは違う取材をしなければならぬと、記者やスタッフの意識が変化したことが最大のメリットだと思います」と佐藤さん。

三十分の延長は、番組に柔軟性を持たせ、スタッフにも新しい刺激を与えている。川島孝雄報道部長はこのことを、「体力がついてきた」と表現する。十分から十五分、時には三十分にも渡る企画ニュースを毎日作らなければならない。こうした日々の訓練から、その日起きた事件をわけなく十分くらいのドキュメントに仕上げるのができるようになったと言う。昨年の夏起きた小学生誘拐事件では、解決から二時間後に七五分の特番を組んだ。「三十分時代ならとてもゾーンインは出せなかった」と佐藤さん。

新聞のラテ欄にはキャスターの名前ではなく、各局とも企画ものの題名がズラリと並んでいる。企画競争なのだ。「明日から『円高講座』をはじめます」と佐藤さんは言う。円が一五〇円を割ったこの日のミーティングで、「前から話していた講座をやろう」とハッパをかけた。そもそも円の値段がどうやって決ま

るのか、というイロハのイから始めたいと言う。「こんなことは誰でも知ってるだろう、という気持ちはすててやりましょ」。

年末、臨時に三十分の短縮番組になった。「あの時はもうできたのか、とみんな顔を見合わせましたよ。ついこの間まで三十分をヒィヒィ言って作っていたくせにね」と川島さんは笑う。

スタート当初は全国ネタもあつかったが、半年で中止。今ではローカル一色に徹している。もちろん、広島に関連したものはドンドンとりあげる。チャルノブイリも円高も広島の見点でキチンと伝える。「全国紙の地方版ではなく、地方紙を作るんだ、いつも言っています」。佐藤さんの言葉が「ひろしま TODAY」の行き方を示している。

(事務局 河野 聡)



「報道部との仕事ははじめて。負いみをすて、ひたすらリラックス」と加藤さん(右)

第77回会報委員会(1・13 第2会議室)

十二月号、一月号について意見交換の後、二月号の編集について協議した。四月からの新企画についても、次回委員会で検討することにした。

出席 深川委員長。井出、安延の各委員。

第34回施設運営委員会(1・14 第2会議室)

十二月の委員会で決定し、一月から販売を始めた喫茶券について報告後、「会員アンケート」で寄せられた会員からの要望を検討、意見交換した。

出席 後藤、佐川、根津、和田、山崎、黒木の各委員。

第113回会員資格委員会(1・14 第2会議室)

二月一日付の入退会を審議し、理事会

へ答申した。

出席 渡辺委員長。中川、小池、樋口、玉井、青木、埜邑の各委員。

第141回企画委員会(1・22 大会議室)

前回以降の行事報告の後、二月からのクラブゲストと研究会のテーマについて検討した。また、五月の通常総会での記念講演の講師についても意見を交換した。

出席 藤村委員長。浅井、山岸、井上、石丸、高野、武藤、浅野、有馬、木村、中川、村野、ヒルシャアの各委員。

第117回理事会(書面)

二月一日付での英文朝日の入会と日刊新愛媛の退会を決定した。

◇特別賛助会員

プロフィール

◇法人賛助会員

■経済見通し研究会から

經常収支 ドルで発表しているのは日本、韓国、台湾ぐらい。円ではかればすでに黒字は縮小している。ドル安のためそれが見えない(鈴木淑夫氏)。

空洞化 米国の場合は、国内に貯蓄がなく資金不足のため起こった均衡破壊的な企業の引越。日本で起こるかもしれないのは、黒字縮小のための均衡回復的なもの。国内に資金もある(鈴木淑夫氏)。

景気の二極化 六十一年度上期の大手企業の經常利益を前年同期比で見れば、製造業マイナス四四・一、非製造二二・三で、全産業ではマイナス一七・三。しかし大手金融は七〇・二になっているので、この全産業に金融を入れて計算すれば九・一という数字に。また、中小の製造業も悪くはなく、二極化現象は大手企業中心。税収が落ちない理由の一つはこの辺にも(松川道哉氏)。

売上税 中期的には間接税で税負担をあげなくてはならない。しかし、いまの状況での導入は物価を刺激し実質成長率を下げる。小さな政府に逆行する危険も。広く薄くとるところが長所の税だが、例外を設けすぎたので、効率化、簡素化から離れたのでは(宮崎 勇氏)。

■「予想アンケート」意外な広がり

年頭恒例の「予想アンケート」は、昨年は、過去最高の五百三十九人からの応募がありました。事務局では投票用紙を厳重に保管し採点をしましたが、ご希望の会員には、ご本人にのみ結果をお教えいたしております。

ところで、ここ二、三年、クラブの「予想アンケート」を扱った新聞のコラム等を見て、問題を社内や家族で楽しんでいくという一般の方々も多いようです。

昨年末から数件、答えを確かめる電話が事務局へもありました。都内のある商社会社では四十三名が参加、最高得点は九点で、一人だったそうです。また、名古屋の中小企業主からは、自分たちでつくった問題を一間プラスして全十一問で投票、最高得点者には夢をふくらます宝クジを賞品として贈っている、といった話もありました。

会員のみなさんも、今年のご家族で「予想アンケート」を楽しんでみてはいかがでしょう。

会員の著書(ご志願いただきました)

経済情報を見る眼・読む眼 今 静行

戦争報道の内裏 芳地昌三訳

大阪市の群像 池尻一寛

紹介 会合

7日▽シッピングアン
ドトレードニュース賀
詞交換会(東京ニュー
ス 奥山忠会員) 9
日▽行本和也さん激励
会(中日 伊藤修会員)
▽新聞航空懇談会(読
売 浦田進会員) ▽新聞製作者新年合
同名刺交換会(協会 今田昭会員) ▽
科学論懇談会(日経 堤佳辰会員)
10日▽「食の科学」編集委員会(山地進
会員) 12日▽金融問題勉強会(NHK
浜野崇好会員) ▽市川聡君を送る会
(日刊スポーツ 三浦勝男会員) ▽新
年講演会 飯島清評論家(協同広告 只
野重樹会員) ▽マツダ・トラクタクラ
ブ記者発表(マツダ 平岡建二会員)
13日▽トヨタ年頭記者会見・懇親会―豊
田章一郎社長と役員が外国特派員と会見
(トヨタ自動車 小宮好雄会員) 14日
▽「クアハウスガイド温泉でシェイプア
ップ」出版記念パーティー(朝日放 簡
井昭雄会員) 16日▽新聞通信調査会、
同盟育成会、同盟クラブ合同新年互礼会
(殿木圭一会員) ▽日本外交協会新年
懇親会(池浦泰安会員) ▽オホーツク
ふるさとフォーラム―北海道・道北地区
のむらおこし運動(志村弘雄会員)
19日▽内外コミュニケーション研究会懇
親会(甲斐原文夫会員) ▽企業広報責

任者勉強会―作家高杉良氏(日産自動車
長谷川研一会員) 21日▽新聞協会新
年懇親会(山田年栄会員) 23日▽現代
セミナー例会―三宅和助外務省中近東ア
フリカ局長「イランゲートの内幕」(楠
田実会員) ▽花王生CM民放連盟賞感
謝パーティー(テレビ朝日 田窪俊司会
員) 26日▽新聞協議会(山形 堀田稔
会員) 27日▽東京懇話会(道新 池上
忠行会員) ▽新聞広告を考える会(南
日本 入田良男会員) 28日▽小林陽太
郎富士ゼロックス社長を囲む会(日経
新井淳一会員) ▽エネルギーを考える
会(読売 中村政雄会員) 29日▽みち
のく懇話会新年懇親会(陸奥 川越淳宏
会員) ▽デュボンジャパン自動車関連
事業本部発足記者会見(国際PR 三浦
孝会員) 30日▽第3回ラジオたんぱア
ジア賞授賞式・パーティー―同賞はアジ
ア地域各国に日本を紹介するのに功績の
あった個人、グループに贈られるもの
で、今回はベルナマ通信(マレーシア)
日本取材班代表のムサ・スカリー氏が受
賞(日本短波 関口欽也会員) ▽売上
税対策会議(協会 権田萬治会員) ▽
第2回国際アニメーションフェスティバ
ル広島大会記者発表(中国放 玉木実会
員)

〔会員がクラブ施設を利用して行った主な会合〕
です。一月の総回数は九四回でした。



▼このたび銀座七宝
ビルの新築工事に伴
い、当分の間、支社
を左記に移設しまし
た。

飯支社は築地本願

寺真正面の新装ビルで、縁起よく「七
宝」から「金扇」というわけです。東
京支社を大正三年築地に開設してから
七十二年振りの里帰り(笑)、銀座から
は半世紀ぶりの引越です。

築地はとにかくたべものがおいしく
て安い。二年後には再び銀座に戻りま
すが、その間、築地の「味」を満喫し
たいと思っています。

104 東京都中央区築地二一四八
金扇ビル七階

(〇三) 五四六一八一四一
(中国新聞社 岡本説明)

▼昨年十月初めから二度目のシンガポ
ール勤務。と申しましたが、今回は現
地の新聞社の編集デスクに勤務のかた
わら、東南アジア関係の勉強、取材・
執筆という好きなジャーナリズム活動
を続けております。

単身、ホテル暮らしもすっかり慣
れ、健康づくりのための、車をやめて
の徒歩通勤(往復一時間)も苦になら
なくなりました。ビル十四階の編集部
の窓から眺めるすぐ前の海の素晴らし
さ、多忙な編集作業の合間の何より
の憩い。ホームシックも解消されま
す。
(土肥良造)

○囲碁の会

卯年の新年打ち初めは一月末日の土曜
日。一時前から集まり始めた会員は、相
手が来しだい次から次へと対局開始とな
った。十九人の総対局数は四十一局。

年が明けて初めて石をにぎるといふ人
も数人、新しい年を占う楽しくもまた真
剣な鳥鷲の戦いが続いた。年の初めに幸
先のいいスタートを切ったのは、太田稀
喜二段(毎日)、赤井良平五段(日経)、山

崎政人四段(毎日OB)、斎藤吉史三段
(朝日OB)、河田稷三段(会友)、石川基
二段(サンケイ)、塚本一初段(サンケイ)
の各氏だった。

今年も原則として毎月一回の例会、六
月と十二月の大会、プロ棋士を招いての
指導碁は例年通り、ほかに他グループと
の親善対抗戦なども考えています。二月
の例会は二十一日(土)午後一時からク
ラブ大会議室で。初めてのの方の参加も大
歓迎です。



写真部

改修終えたミッドウエー

写真 秦

太一郎 (共同通信社写真部)

日本人にはおなじみの米第七艦隊の空母「ミッドウエー」(五一、〇〇〇トン)が在日米海軍横須賀基地で昨年三月から行っていた大改修を終え、一月九日朝同基地を出航、各社がヘリを飛ばしてこの姿をとらえ同日の夕刊に報じた。

できるだけ対象物に接近して大写しにしディテールをはっきりとさせるか、あるいはその位置を知らせるため対岸の一部を視野に入れるかが、この種の撮影の常道だろうが、この写真は後者をとった。つまり上部に見えるのが横須賀基地である。エンジンを動かすタービンの煙も見えて動感のある出港風景だ。

専門家が見ればどこが改修されたのかもわかるだろうが(一九四五年建造「ジーン年鑑」、しろうとはわからない。わかるのは「ミッドウエー」が長期にわたる日米安保の象徴的存在であり、その名が前の大戦で日本の敗北のふたあけとなった海戦名であることだ。

この朝、天気晴朗で波風穏やか。ヘリ取材には絶好だったというが……。

(深谷 憲一)

「福引」景品提供社

左記の会員社から新年互礼会用の「福引」景品をご提供いただきました。お礼申しあげます。(順不同)

- 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 日本経済新聞社
- サンケイ新聞社 共同通信社 中日新聞社 北海道新聞社
- 西日本新聞社 時事通信社 河北新報社 信濃毎日新聞社
- 新潟日報社 京都新聞社 神戸新聞社 山陽新聞社
- 中国新聞社 高知新聞社 熊本日日新聞社 南日本新聞社
- 静岡新聞社 岩手日報社 秋田魁新報社 山形新聞社
- 北日本新聞社 岐阜日日新聞社 福井新聞社
- 愛媛新聞社 徳島新聞社 四国新聞社 大分合同新聞社
- 福島民報社 福島民友新聞社 長崎新聞社
- 沖縄タイムス社 日本海事新聞社 東京ニュース通信社
- 陸奥新報社 デリー東北新聞社 茨城新聞社
- 下野新聞社 千葉日報社 奈良新聞社 山陰中央新報社
- フクニチ新聞社 宮崎日日新聞社 日本新聞協会
- 日本プレスセンター 日本放送協会 東京放送 日本テレビ放送網
- フジテレビジョン 全国朝日放送 朝日放送 毎日放送
- 読売テレビ放送 テレビ東京 文化放送
- ニッポン放送 中部日本放送 日本短波放送 エフエム東京
- 東北放送 秋田放送 東海ラジオ放送 静岡放送
- KBS京都 山陽放送 広島テレビ放送 テレビ新広島
- 東海テレビ放送 日本民間放送連盟
- 東京電力 大広 電通 アラスカ サントリー 博報堂
- 朝日広告社 日本新聞インキ 国際PR 日本航空
- 日本電気ホームエレクトロニクス 日本ABC協会
- ニッカウキスキー 富士石油 日本コカコーラ エッソ石油
- 日本電信電話 日本電気協会

東通 カナダロイヤル銀行 第一企画 安田火災海上
 保険 鐘紡 デュボンジャパン 三菱商事 明通 三
 井物産 パーソン・マーステラ 川鉄商事 土田節郎
 会員 EC委員会

座談会、インタビューに八階応接室を

八階には応接室、第一会議室、第二会議室の三つの貸室があります。応接室は大理石の丸テーブルにソファ六脚で、速記テーブルも配置されています。インタビューや座談会のほか、会員社の会合に見えたゲストや講師の方々の控室としてもご利用いただいています。第一会議室、第二会議室は一〇〜一五人程度のミーティングや会食に適しています。両会議室とも、昼食時には幕の内弁当(一、五〇〇円から)ないしカレーライス(六〇〇円から)のサービスが可能です。貸室料金は次の通りです(二時間単位)。

- 応接室 一五、〇〇〇円
- 第一会議室 一〇、〇〇〇円
- 第二会議室 一〇、〇〇〇円

借室申し込みはお早目にお願いたします。お問い合わせは〇三(五〇三)二七二でうけたまわっております。

クラブ訪問者

1. 21 松田慶文外務報道官、波多野敬雄前外務報道官

ゲスト・カースト

第三回韓国記者研修参加者
 〓 F P C 伊千植(韓国日報)
 申宗秀(中央日報) 金光源(東亜日報) 李備(京郷新聞) 俞世鎮(ソウル新聞) 権奇八(韓国日報) 朴昌浩(釜山日報) 金存錦(全北日報)

展覧会の招待券 朝日新聞社から「菱田春草展」「第三十一回現代書道二十人展」「横山大観屏風絵展」、毎日新聞社から「浮世絵名作展」、平野光男会員(西武美術館)から「木田安彦展」「田中一光 デザインのクロスロード」「川原慶賀展」「横尾忠則展」「八島正明展」の招待券をご恵贈いただきました。お礼申し上げます。

訃報 宮永真弓会員(宮崎日日新聞社)が十二月二十九日、胆管がんのため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

二月一日現在の会員状況 法人会員 一四五社 基本会員 六一七人 個人会員 一、三五〇人 法人・個人賛助会員 七七社 二二三社 特別賛助会員 七五人 名誉会員 一五人 計 二二二社 二、二九一人

二月の行事(6日現在)

24日(火) 午後3時〜4時 チョウドリ国連議長
 (バンングラデシュ外相) 記者会見

27日(金) 正午〜午後2時 石原俊経済同友会代表幹事昼食会

会報委員長 深川 誠

委員 小林 利隆 井出新六 斎藤吉史 安延久夫
 連絡 長谷川 河野(事務局) 五〇三一二七二二